

令和元年度 学校自己評価システムシート (清和学園高等学校)

目指す学校像	通信制・単位制の特性を最大限活用し、「行うことによって学ぶ」の建学精神を礎に生徒の具体的な目標に合わせて、一人ひとりの夢や希望を叶える学校を目指す。
--------	--

重点目標	1、挨拶の励行と整理整頓を柱に基本的生活習慣の確立。 2、基礎学力の更なる向上と生徒の無限の可能性を引き出す。 3、資格・検定取得の推奨と部活動の推進。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	2名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標					年度評価(2月17日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 通信制高校という特性から様々な学習歴を持った生徒が入学してくるが、その多くは、基礎的学力が身に付いておらず、その上、挨拶や身の回りの整理整頓もできない生徒が目立ち、基本的生活習慣の改善が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上を目指した工夫や改善がみられたか。 教師自ら率先して挨拶や声かけをできたか。 整理整頓が年間を通してできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 週2日間で5時間、基礎学力の向上と題して、教科別スクールを実施。学び直しを毎週実施する。 朝のSHRや帰りの会等で教師の積極的な声かけと現場指導を徹底し、ロッカーの整理整頓を各クラスで「見える化」する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科別スクールに積極的に参加を呼びかけているか。参加していない生徒の指導が十分できたか。 実習服の整理整頓や教科書の持ち帰りの個別指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科別スクールへの評価を月1回実施し、その結果不登校の生徒の出席率が前年度より良好になりつつある。 教師個々の声かけにより、整理整頓や、ロッカー指導は、成果があった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒へは個別指導を繰り返してはきたが、登校できない生徒もいるのも課題である。 基礎学力向上の為週に2時間国・数・英については学習時間を増やしたことにより、基礎学力は定着しつつある。
2	<ul style="list-style-type: none"> 単位習得率が教科によって差があるが、学習指導の改善と生徒主体のアクティブラーニングの推進を図る。 生徒主体のアクティブラーニングと主体的・対話的で深い学びの推進をどう通信制高校として図っていくかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科によって単位習得率が異なる中、指導内容の改善や工夫がみられたか。 生徒主体のスクーリングができるような教材や実習の工夫があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に英・数といった苦手教科については、副教材の「ラスパ・ラルボ」を中心にスモールステップで個別指導の徹底を図る。 実技以外でも、教室でのスクーリングもICTを活用し、生徒が主体的に取り組める活動を展開。 	<ul style="list-style-type: none"> 副教材を使用している個別対応の中で能力別プリント作成を実施することができたか。 実習・実験の事前準備や視聴覚教材等の積極的な活用ができていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別対応の学習プリントも全教科で作成できるよう取組む。 生徒主体のアクティブラーニングの取組を全教科で実施できるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 単位習得率も全体として上がっては来ているものの、全体では95パーセント以上を目指し、保護者からの信頼を高めるよう心がける。 アクティブラーニング研修会への積極的に参加。
3	<ul style="list-style-type: none"> 本校は通信制高校では、全国唯一、国家資格の取得できる自動車科・調理科がある。合格率を全国平均以上に上げることが一つの課題である。 ゼミナールや資格演習で一つでも上位の資格を目標にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年3月に実施される自動車整備士の国家試験の合格率を上げることができたか。 検定試験において一つでも多くの資格に合格することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車科においては、1月より国家試験対策を実施。生徒のABCの3段階に区分して、能力別個別指導の徹底。 資格演習と教科別スクールの中でも検定試験対策を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた学習計画を推進することができたか。 教師自らの自作問題で個別指導で個々に指導できたか。 能力別の教材できちんと指導ができていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車科の合格率は全国平均を大きく上回ることができたか。 資格取得では、昨年以上の結果を残すことができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の合格率の現状を把握して、来年度に生かせる指導の取組の実施。 教師の自作プリントの申し送り、個別指導での基礎学力の徹底を図る。
4	<ul style="list-style-type: none"> 通信制高校の特性により部活動に参加する生徒が少ない中、学習以外でもやればできるという自信が自己効力感にも結び付くことから部活動の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の経験が少ない生徒を部活動説明会や担任・顧問の声かけにより、参加することの意義を伝えることができたか。 各種大会に積極的に参加できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎からの反復練習を繰り返すことにより、基礎体力をつけさせる指導の工夫。 他校との練習試合や合同練習の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の機会を多く持つことができたか。 他校との交流を通して、部活動の楽しみや勝ことの喜びを分かち合うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車部高校生エコランコンテスト優勝 サッカー部県新人大会優勝 ソフトテニス部全国大会出場 卓球部全国大会出場 	A	<ul style="list-style-type: none"> 軽音楽部が、外部発表の場を確保することができた。 野球部の全国大会出場とソフトテニス部・卓球部三年連続全国大会出場を目指す。

学校関係者評価	
実施日	令和2年 2月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 今年度はじめて調理科の卒業生が出るが、今後も通信制と言っても登校型を目指していることから就職の出口がきちんと確保できる学校を目指してもらいたい。 挨拶については、どの生徒もよくできるようになってきていると思う。今後もよい面は継続できればと思う。 単位習得率の向上は学校の信頼も高めることになることから、今後も努力して頂きたい。 生徒主体のアクティブラーニングの取り組みはどこの学校でも実施されていると思われるが、通信制高校の特色を生かしたものにしてもらいたい。 県内に国家資格の取得できる唯一の自動車科があり、合格率注目されるようになると思うので頑張りたいと思う。 各種資格取得が就職にも有利になると思われるので、一つでも上位の資格を取得できるよう先生方から生徒への呼びかけも必要になるのではないかな。 様々な学習歴の生徒が一つの事に目覚めて自信を身につけていくことはとても大切なことであると思う。 部活動での目標が達せられてよかったと思います。是非とも個々の生徒に向き合う姿勢を今後も継続してほしい。 	

